

名古屋記念病院 新型コロナウイルス感染拡大の概要(中間報告)

1 2020年2月新型コロナウイルス感染症（COVID19）が日本国内でも多く発症するに至ってから、当院は、帰国者接触者外来、発熱外来、入院対応（7月からは重点医療機関、協力医療機関）で、COVID19対応を行ってきました。この間、職員に対しは厳しく私生活までも制限をかけ、12月中旬まで職員の発症、患者の院内発生は1例もありませんでした。

2 〈発端と経過〉

12月16日に診療技術部門の職員の新型コロナウイルス感染がPCR検査で確認されました。同職員からは前々日（12月14日）の夜に症状の申し出があり、直ちに行動履歴を聴取し、濃厚接触者とともに同日から自宅待機を指示し、翌朝に濃厚接触者とともにPCR検査を施行したところ16日に陽性の結果が判明したものです。

感染者の発生については、速やかに所轄保健センターに報告（既報；当院ホームページお知らせ「当院における新型コロナウイルス感染症発生について」第1報）しました。感染者発生を受けて接触が疑われた関係者にPCR検査を実施したところ同部署内で計5名の陽性者が明らかになりましたが、感染の範囲は部署内に限られ限定的なものでした。

12月16日より、緊急対策本部を立ち上げ、消防、近隣医療機関にも報告して、検査縮小、救急搬送原則停止など申し入れました。

12月19日にA病棟職員の抗原検査で陽性が判明しましたが感染経路は不明でした。直ちに当該病棟への立ち入りおよび新規入院の受け入れを停止するとともに、当該職員の濃厚接触者と受け持ち患者など、広い範囲でのPCR検査を施行しましたが、同病棟ではほかの発生はありませんでした。

12月22日以降に多くの関係者の抗原検査およびPCR検査の結果が出て、23日夜までにB病棟患者、職員、C病棟患者、職員、D病棟患者、職員、透析室職員など20名以上の陽性者が判明しました。

E病棟では23日に他院にてPCR陰性を確認されて転院してきた患者が、翌日当院検査で陽性者と判明し、感染のさらなる拡大が認められたため、12月23日夜以降の新規入院、救急搬送、救急外来、初診外来、紹介などすべて停止とし、すでに予約済みの再診患者につきましても25日から（電話再診除き）停止としました（既報;同第3報）。

25日までに職員20名、入院患者34名の計54名の陽性者が確認されました(既報;同第4報)。感染拡大防止のため行政をはじめ大学病院の危機管理・感染対策部門、専門家の方々の支援をいただきながら、すべての感染経路の洗い直しを行うとともに、感染対策の基本手技、ゾーニングから見直しを実施しました。

26日に陽性患者の多くを新たに陽性患者専用病棟としたF病棟に転棟して頂き、29日までに、陽性患者をF病棟、C病棟に移動、B病棟を濃厚接触者、接触者でPCR陰性者の専用病棟とし、D病棟を閉鎖しました。

12月29日以降はB病棟で陽性患者が散発的に発生していますが、それ以外の病棟からは新規陽性者は発生していません。

職員についても散発的に陽性者が発生していますが、当該関連部署、病棟以外での陽性者の発生はありません。

1月9日15時までに入院患者71名（42～96歳、70歳代17名、80歳代30名90歳代9名）、職員45名（診療技術部門7名、研修医1名、看護師・看護補助者36名、委託業者2名）の陽性者が確認されており、患者は治療中27名のほか、感染隔離解除され原疾患の治療中、退院、転院などであり、感染後の死亡は9名（73～92歳）です（ただし現時点で、全てが新型コロナウイルスによる死亡と判断されているわけではありません）。職員は1名が中等症でそれ以外の44名は軽症又は無症状です。現在は16名が治療または自宅療養中で、治癒もしくは隔離期間解除で職場復帰可能もしくは復帰したものが29名です。

3 〈感染経路〉

感染経路については確認調査中ではありますが、職員が家族から感染したケースや他の施設や病院から転院してきた患者で陽性者であったケースなど複数の感染源が同時期に発生した可能性を考えています。

感染拡大の要因として、高齢者が多い病棟で拡大していることから、さまざまな疾患を抱えた高齢者が罹患、重症化しやすいことや認知症などによりマスク着用や行動制限が守りにくい患者がいたことなどもあります。感染症状が乏しいあるいは無症状の人（職員も含め）も多く、感染を疑うことが遅れたこと、お互いのマスクの着用など通常の感染予防策は行っておりましたが、マスクを外さざるを得ない状況（食事介助、口腔ケア、吸痰処置など）での感染予防策などが不十分であったことも否定できません。

4 すでに、全職員に対しより徹底した健康観察を行っています。また、あらためて基本的な手指衛生、防護具の脱着などを見直し指導しております。そのほか、入館時のチェック体制をこれまで以上に行い、入院時には全例のPCR検査施行などの準備をしております。

以上は現時点での中間報告で、現在調査は継続中です。最終的な報告は後日となることをご承知おきください。

2021年1月9日

名古屋記念病院
院長 長谷川真司